

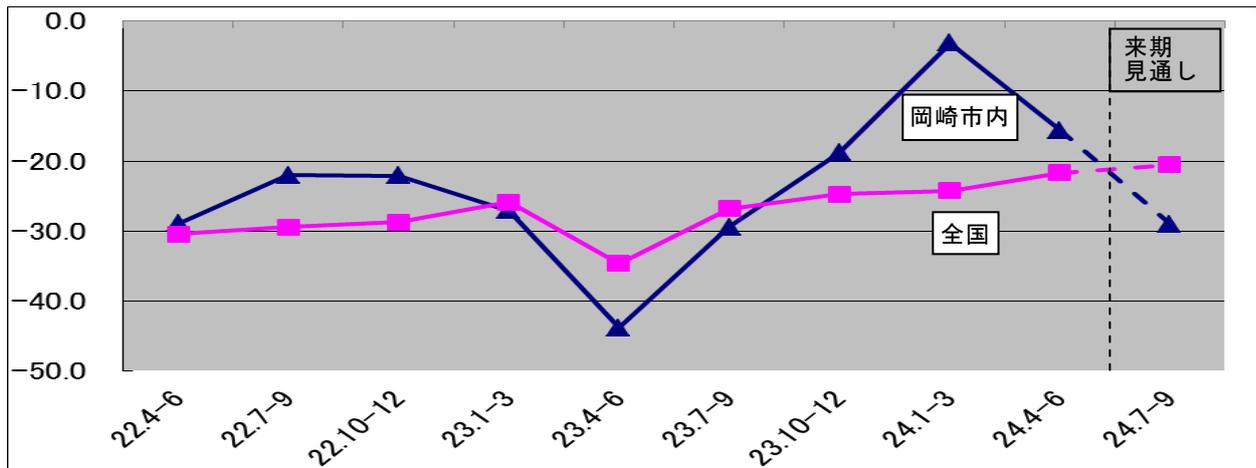
■岡崎市内景況調査結果(平成24年4～6月期分)

景況DIは4期ぶりに下落、先行きは不透明感が漂う！

- 調査対象：本所各部会役員・幹事440事業所
- 有効回答：187事業所(回答率42.5%)
- 調査期間：平成24年6月26日～7月10日
- 調査方法：ファクシミリによるアンケート方式
- 調査内容：(1)前年同期(平成23年4～6月)と比べた今期の状況
(2)今期と比べた来期(平成24年7～9月)の先行き見通し

業種(対象数)	回答企業数	構成比
製造業(118)	57	30.5%
建設業(102)	41	21.9%
小売・卸売業(103)	47	25.1%
サービス業(117)	42	22.5%
合計(440)	187	100.0%

■市内の景況全体の概要



※全国平均は、(独)中小企業基盤整備機構が発行する中小企業景況調査報告書より引用
(全国の商工会議所、商工会の経営指導員、及び中小企業団体中央会調査員による聞き取り調査。)

○岡崎市内の全業種の今期(平成24年4～6月)景況DIは、△15.5(前期比12.3ポイント減)で、全国平均を上回ったものの4期ぶりにデフレ脱却の糸口が見出せず、悪化マインドに転じた。

○来期(平成24年7～9月)景況DIは、△28.9(今期比13.4ポイント減)。国内では震災復興需要を期待するものの、米国や中国の景気減速懸念、欧州債務問題の不透明感、さらには円高による製造業の海外シフト加速、さらに牽引する自動車関連は補助金終了に伴う需要減など懸念する声が多く、マインドは下振れ見通しとなった。

【データ：全業種】

	前年同期比(前期) (H24.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.7-9月期)
景況	△3.2	↓12.3	△15.5	↓13.4	△28.9
売上額※	11.8	↓10.2	1.6	↓21.9	△20.3
資金繰り	△4.8	↓3.8	△8.6	↓10.1	△18.7
採算(収益)	△10.2	↓6.4	△16.6	↓12.3	△28.9

※売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

◎本報告書中のDIとは、「デフレーション・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(上昇、好転)した企業割合から、「減少」(低下、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のDIは、30-20=10となる。また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算(収益)」のプラス幅が増加し「↑」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「↑」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

■業種別の概要

(1) 製造業

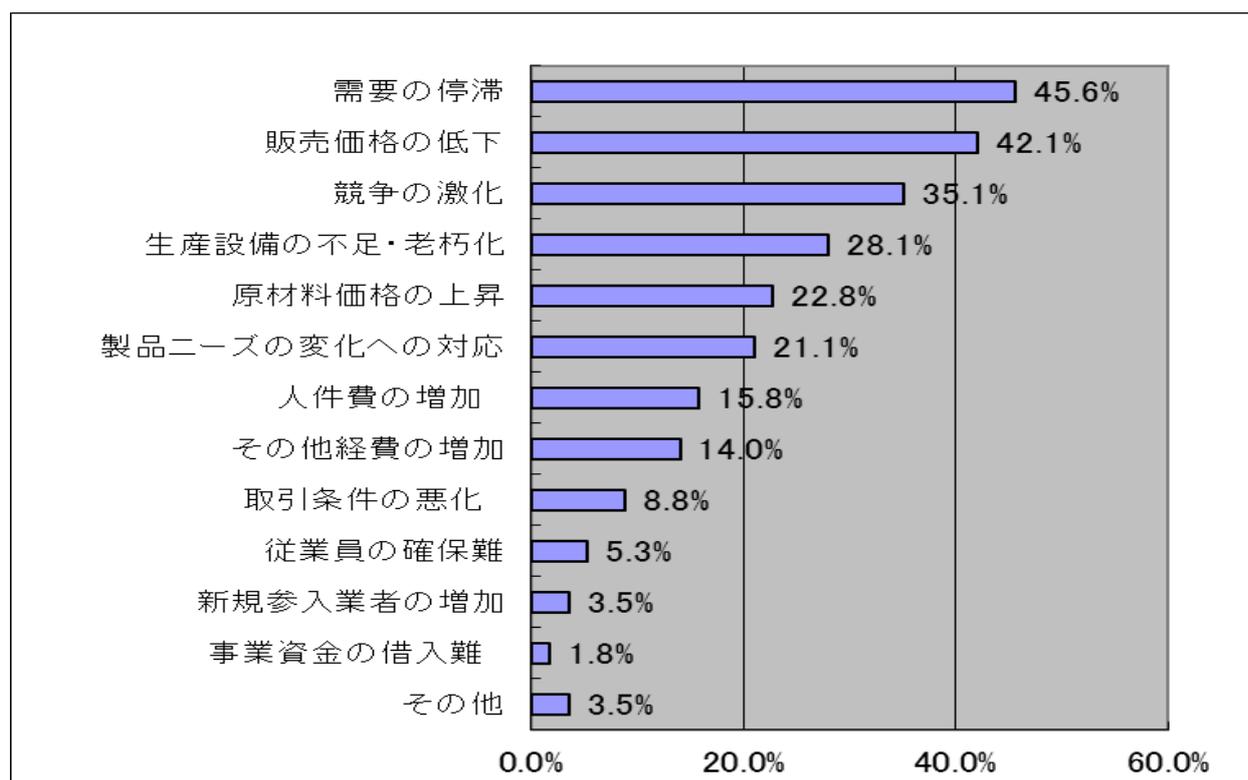
○今期景況DIは、3.5（前期比3.5ポイント増）。景況感はプラスとなり、売上額は前年同期の震災禍の反動で大幅プラスとなったが、採算は若干のプラスに留まった。

○来期景況DIは、△25.0（今期比28.5ポイント減）。景況感は自動車関連を中心に、大幅に悪化する見通しを示した。

【データ：製造業】

	前年同期比(前期) (H24.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.7-9月期)
景況DI	0.0	↑3.5	3.5	↓28.5	△25.0
売上額	22.8	↑7.0	29.8	↓45.9	△16.1
原材料仕入価格	42.1	↓19.3	22.8	↓8.5	14.3
製品在庫	5.3	↓14.1	△8.8	↑3.4	△5.4
資金繰り	0.0	↑12.3	12.3	↓24.8	△12.5
採算(収益)	7.0	↓3.5	3.5	↓32.6	△29.1

【経営上の問題点】※複数回答



(その他)・取引先の海外進出、現地調達化

【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・円高を背景に生産拠点の海外移転による受注競争激化。(自動車関連部品、繊維製品)
- ・海外部品メーカーの台頭により価格競争激化。(自動車関連部品)
- ・国内市場の縮小と価格下落で収益力低下。(化学製品)
- ・大手メーカーの廉売による正常な競争原理の喪失(食品)
- ・景気の先行き不透明感が強く明るさがみられない。(全般)

(2)建設業

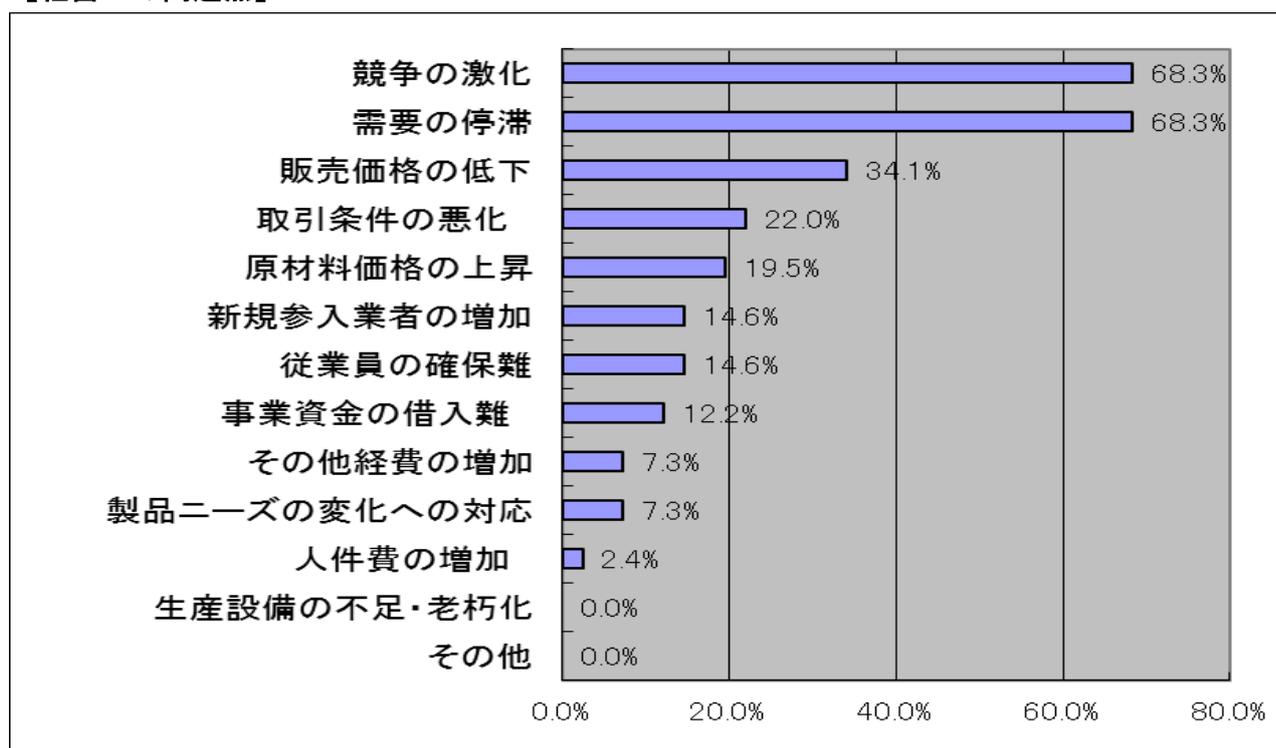
○今期景況DIは、△34.1（前期比17.9ポイント減）。年度末工事後の一服感により、景況感は前期より大幅に悪化している。また、資材仕入価格が上昇していることから資金繰りも悪化した

○来期景況DIは、△36.6（今期比2.5ポイント減）。景況感は公共工事関連の出遅れ感、民間工事関連も大型物件が少なく、下振れ懸念が続く見通しを示した。

【データ：建設業】※複数回答

	前年同期比(前期) (H24.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.7-9月期)
景況DI	△16.2	↓17.9	△34.1	↓2.5	△36.6
完成工事額	△8.1	↓13.9	△22.0	↑2.5	△19.5
受注額(新規契約)	△38.2	↑21.1	△17.1	0.0	△17.1
資材仕入価格	30.6	↑6.0	36.6	↓4.9	31.7
資金繰り	△24.3	↓7.4	△31.7	0.0	△31.7
採算(収益)	△29.7	↓11.8	△41.5	↑2.5	△39.0

【経営上の問題点】



【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・受注競争の激化が継続しており収益面を圧迫している。(総合建設業)
- ・震災復興需要により原材料価格の上昇、原価低下を懸念している。(住宅建築業)
- ・公共工事の入札件数、発注額が減少しさらに競争が拍車。(管工事業)
- ・デフレ傾向の長期化で今後に強い危機感。(石材業)
- ・民間設備投資が依然として明るさがみられない。(全般)

(3)小売・卸売業

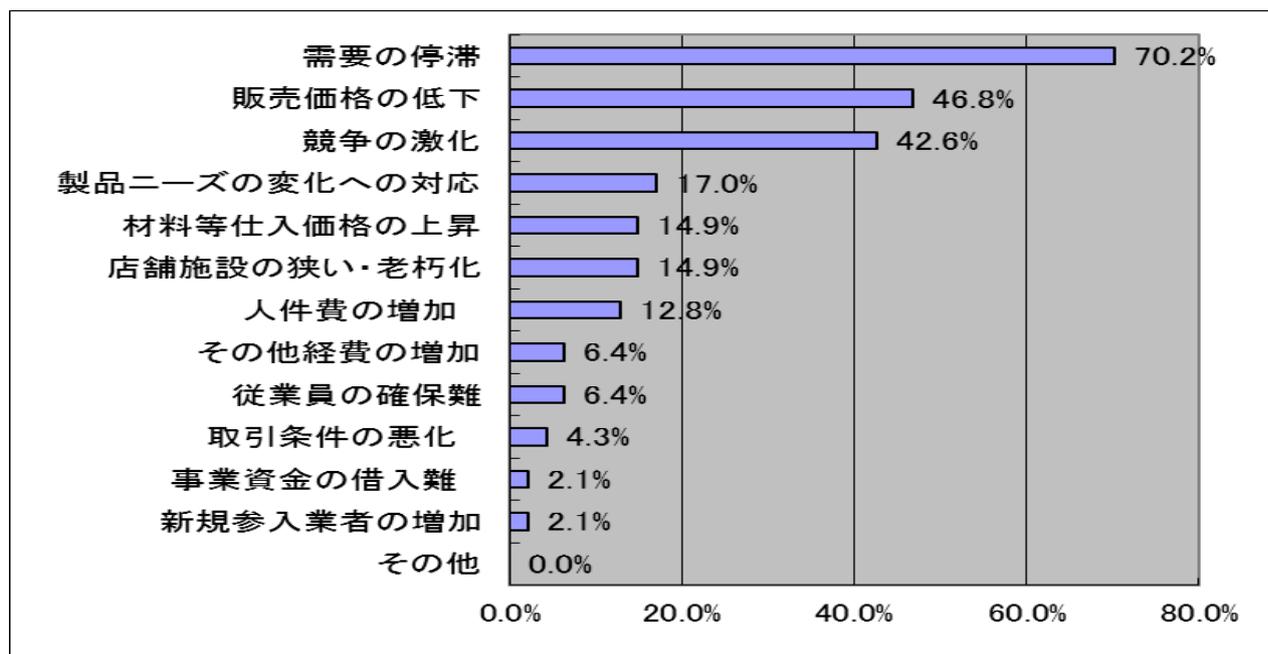
○今期景況DIは、△19.1（前期比10.8ポイント減）。売上額・採算ともに悪化し、資金繰りも改善傾向には至っていない。

○来期景況DIは、△27.3（今期比8.2ポイント減）。景況感は前期に引き続き下降傾向が続き、採算は大きく下落する見通しを示した。

【データ：小売・卸売業】

	前年同期比(前期) (H24.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.7-9月期)
景況DI	△8.3	↓10.8	△19.1	↓8.2	△27.3
売上額	13.9	↓7.5	6.4	↓9.5	△15.9
商品仕入価格	16.7	↓8.2	8.5	↓8.5	0.0
商品在庫	△2.8	↓7.8	△10.6	↑6.1	△4.5
資金繰り	△2.9	↓5.8	△8.7	↓5.3	△14.0
採算(収益)	△8.3	↓0.2	△8.5	↓16.5	△25.0

【経営上の問題点】※複数回答



【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・節電関連商品の需要増に期待。(総合小売業)
- ・低燃費化に加え節約ムードで需要減退。(石油製品販売)
- ・需要が伸びない中で海外拠点づくりを検討。(燃料製品販売)
- ・消費を喚起する為にあらゆる手段を講じてチャレンジするのみ。(衣料品販売・身回り品販売)
- ・デフレ傾向から脱却できる明るさがみられない。(全般)

(4) サービス業

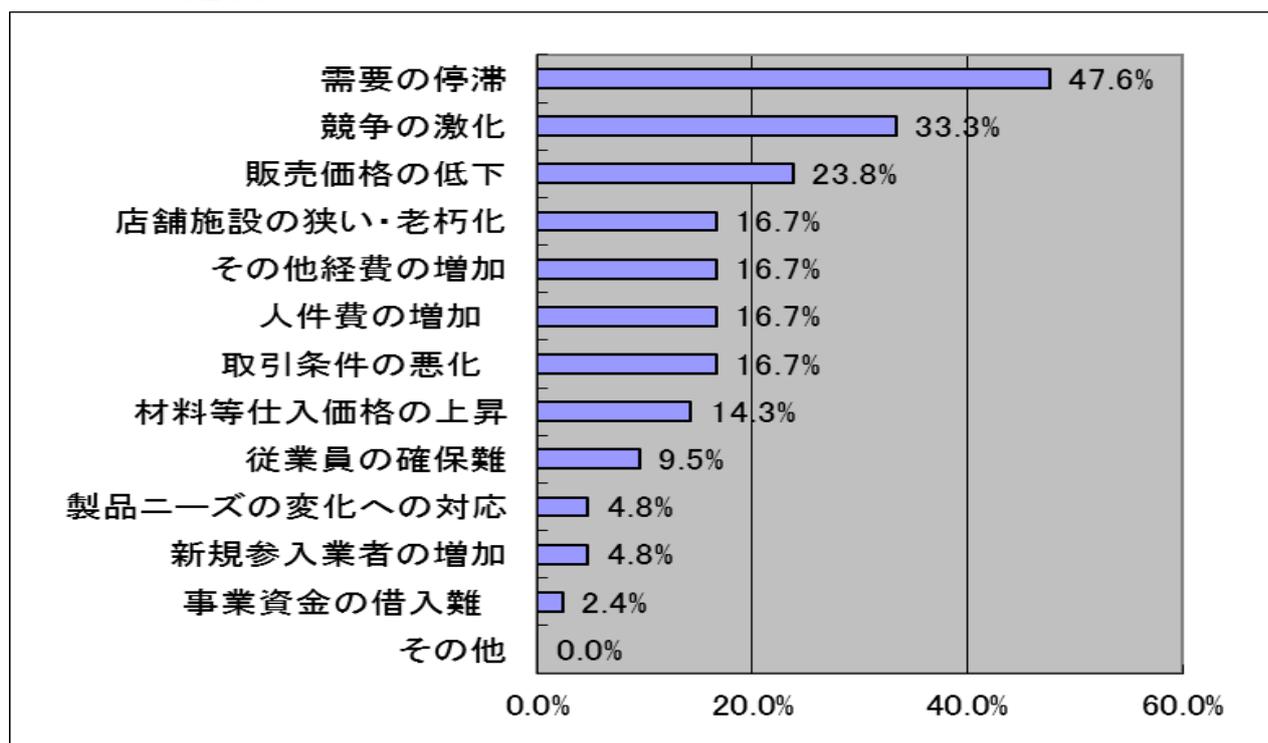
○今期景況DIは、△19.5（前期比26.6ポイント減）。利用客数も減少し、売上額・採算ともに大幅にマイナス傾向で景況感は悪化した。

○来期景況DIは、△32.5（今期比13.0ポイント減）。来期の景況感は需要が上向く気配がみられず、さらに下向く見通しを示した。

【データ：サービス業】※複数回答

	前年同期比(前期) (H24.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H24.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H24.7-9月期)
景況DI	7.1	↓26.6	△19.5	↓13.0	△32.5
売上額	17.1	↓36.6	△19.5	↓15.5	△35.0
利用客数	14.3	↓29.3	△15.0	↓10.0	△25.0
資金繰り	2.4	↓31.7	△29.3	↑6.8	△22.5
採算(収益)	△2.4	↓17.1	△19.5	↓8.0	△27.5

【経営上の問題点】



【主な事業者の声—直面する経営課題・業界動向—】

- ・消費マインドの低下で夏の需要期の伸び悩み懸念。（旅行業）
- ・客室稼働率は横ばいながら単価下落で採算悪化。（ホテル）
- ・補助金による新車販売堅調の影響で整備需要が下振れしている。（自動車整備業）
- ・燃料が高止まりしているが、自動車関連の需要増に伴い売上は堅調。（運送業）
- ・新聞購読世帯減少やコンビニ増加による影響で書籍売上が減少している。（新聞図書販売）
- ・明るい話題が少ないことが、景気マインドに悪影響を及ぼしている。（全般）